

第2回 11月17日（木） 【都市像ごとの検討】

※主なご意見をまとめたものです。

“都市と自然が調和する新しいまちづくり”グループ

『地域のまとまりが自らつくり守るまち』

地域の自主防災について

災害対応の訓練がなされていない。

災害対応の訓練が十分にはされていない。

地域の足を十分に確保

コミュニティバスは非常に喜ばれている。

地域内の一体感を醸成するためには必要である。

自治会について

自治会に関心のない人が多い。

自治会活動に参加する人が決まっている。

地域の自立について

市民グループが地域の事業に参画できる場が少ない。

区政が敷かれた後、区に財源や権限が必要である。

市民グループはたくさんあるが、連携している場面が少ない。

区の人口が少ないため、市政に意見を反映できるか心配。

第3回 11月26日（土） 【提言】

※主なご意見をまとめたものです。

“都市と自然が調和する新しいまちづくり”グループ

『地域のまとまりが自らつくり守るまち』

◎自主防災組織の早期立ち上げなどについて

- 自主防災組織は、全自治会で早急に結成する。
- 災害時の自治会連絡体制の確立
- 官民地域が連携した災害対応の体制づくり
- 地域全体での災害対応訓練の実施

◎参加しやすい地域コミュニティづくり

- 自治会強化のため、人材育成と人材の掘り起しが必要である。
- 地域のことがよく分かる地域密着型の広報が必要。
- 自治会と地区の学校との連携が必要。
- 気楽に頼みごとができるような近所づきあい。

◎安心して、出歩け、住めるまち

- ボイ捨て条例等モラルに関する条例の必要性
- より多くの救急医療機関の必要性
- 市街地に緑地や雪捨て場などのゆとり空間をつくり出す。
- 地域内の交通をスムーズにし、人と車が分離した道路をつくりたい。

◎地域が自立できる意思決定の仕組みづくり

- 人口規模だけではない財源や権限の確保必要。
- 自治組織の確立と円滑な運営を行なう。
- 旧市町村間職員の人事交流の必要性。
- 一体感醸成のため、区内循環公共交通が必要。



“にぎわいのある魅力的なまちづくり”グループ

『何度も訪れたいくなる美味しい街 にいがた』

にいがたCityの個性的なPR

観光資源は多いが、外部に売込みが下手である。

新潟出身の有名人は多いので、宣伝マンになってもらう。

8つの区の交流を活発にして、個性を創出。

地域が広すぎて、一体感の醸成は難しい。

コミセン、公民館活動を、市民の力を借りてもっとよくする。

各地区にコンベンション施設を設置することで活性化を。

商業施設の配置は、市民・行政等の意見にそってなされるように。

“にぎわいのある魅力的なまちづくり”グループ

『何度も訪れたいくなる美味しい街 にいがた』

◎自然と食を生かした体験イベント

- 夕日ツアーと浜茶屋等宿泊体験。
- ワインと四季の地元食材の料理でもてなす。
- 野鳥観測と鳥料理の体験
- パラセーリング体験

◎にいがたCityの個性的なPR

- 新潟出身有名人をもっと宣伝に活用する。
- 新潟の新しい歌を作り、出身歌手に歌ってもらう。
- 新潟市内8区の個性・文化・食を表現したマンガを新潟出身の漫画家さんに描いてもらい、食と自然、歴史的な施設を紹介する。

◎誰もが利用しやすい交通アクセス

- 電車等の活用による空港への交通アクセスの短縮
- 地区内を結ぶ新しいコミュニティバスの運行
- 各施設を回れる自転車道の整備
- 8地区を結ぶ高速バスの運行

